



popo

2015年
第9号

法人理念：「共生と自立」

利用者：生活の中で楽しく健やかに生き、生きる力を育むこと

職員：チームワークを持って仕事に励み、創造性を持って自己啓発すること

地域：地域との絆を保ち、地域との共助、協働を旨とすること

ポポ

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行

幼保連携型認定こども園

新たな法制度「子ども・子育て新制度」による運営が始まりました。その中で保育園モモは四月一日より、施設の種類と名称を変え「認定こども園モモ」として新たに歩み始めました。

幼保連携型認定こども園とは「学校及び児童福祉施設としての法的位置付けを持つ単一の施設」です。就学前の子どもに、教育・保育を一体的に行う施設です。今までも保育園では「養護と教育」が一体的に展開されてきました。年齢にあつた「養護と教育」が、生活と遊びを通し実践されてきました。しかしながら、一般的に保育園は教育がないかのように言われ、遊びという保育内容が軽視される傾向にあります。

子ども達は遊びの中で、形無きものに形を与える創造行為を日々行っています。創りあげる行為の中で意志・意欲・想像・工夫様々な要素を学んでいます。生きていく上で大切な事を、子ども達は遊びの中で学んでいるのです。幼児教育は早期教育ではありません。

せん。乳幼児期の育ちに土台があり、小学校以降の国語・算数・理科・社会の教科学習が成立します。平成二十七年、市内の私立保



育園からこども園へ移行したのはモモ一園です。この判断が適切であったか否かは、今後のモモのあり方によるものだと思います。

いつの時代もどのような事態においても、生き抜く力は自分自身の力しかありません。大人にも子どもにも、そして組織にとっても、大切な力は情報を体・心・頭で習得し、それをもとに判断し動き出すこと。そして周囲の人々と協調し事をなすことです。まさに法人理念である「共生と自立」です。法人理念と保護者の方々との



対話を大切にしながら、今後も一人ひとりの子どもの育ちに目をむけ、発達特性や過程に応じ、園児が主体的に活動できる教育保育実践を行っていきます。

認定こども園モモ

園長 神尾美香子

保育参加

保育参加は保護者の方に子ども達の過ごす様子を見てもらうことで保育内容を知り、保護者の方々に安心してお子様を預けていただけるようにと行っている行事です。昨



年度は「来て・見て・遊ぼう」をテーマに実施しました。参加者から「楽しかった、また参加したい」という声が多かったものの、参加のない月もありました。より多くの方々に参加していただきたいために、アンケートも実施しました。結果の中には、地域の方対象の行事だと思っていたという声もあり、職員の意気込みとは逆に園側のお知らせの仕方が不十分ことがわかりました。今年度は主旨をお伝えし、子ども達

の生活や課題保育の場面の他に、ご要望にお応えして、午後からの保育参加枠を設定しています。年間での日時や内容が決まっていますので都合のつく日には是非ご参加ください。

認定こども園モモ

主幹保育教諭 石山佳子

保育園ピノの魅力

保育園ピノは、駅前にある保育園です。優しい色合いや木のぬくもりが感じられるお部屋、保育士たちの温かな語りや唄、手作りの玩具があり家庭的な雰囲気の特長です。

緑や土に乏しい立地ですが、2階のテラスは広く、プランターで様々な植物や野菜の栽培をしています。また近くに畑も借りて毎年さつま

芋などの作物を育て、収穫した物は自分たちで調理し食べるだけでなく、畑でお世話になった方々にお配りするなど、地域



話になった方々にお配りするなど、地域

との交流も大切にしています。

少し歩くと境川や緑の多い公園もたくさんあります。日頃から散歩に出掛けて自然とふれあい、のびのび体を動かし遊んでいます。



散歩先で摘んできた季節の

草花はお部屋に飾ったり、草木染めに使ったりします。この春もタンポポを見つけ、年長児クラスで毛糸を染めました。夏になるとテラスにプールを設置し、裸足になって思うぞんぶん水遊びを楽しみます。青空の下、びしょ濡れになって遊ぶ子ども達の嬉しそうな声が毎日響いています。

ピノでは、保育園だからこそ経験できる生活や遊びを通して、身近な人々と交流し『共に生きる力』を育てます。そして、子ども達から湧き出る好奇心や探究心、自ら「やってみよう」と思う気持ちを育み、主体的に活動する環境の中で一人ひとりの個性が輝く保育、生きる力を育てる保育を大切にしています。



保育園ピノ

主任保育士 木下久乃

新入職員紹介



認定こども園モモ、保育園ピノの新入職員です。皆さま、宜しくお願い致します。

デイサービスセンターモモ

忘年会

一年の締めくくり、そして、利用されている皆様へ感謝の意を込めて十二月に忘年会を行っています。通常とは異なり特別な一日として職員一同、精一杯のおもてなしをさせて頂いています。

食堂にはクリスマスを意識した装飾を施し、雰囲気を変えて利用者をお迎えしています。忘年会に向けて職員は利用者の喜ぶ顔を思い浮かべながら装飾の準備を行っています。装飾の配置に職員同士意見を言い合い喜んでいただける雰囲気作りに取り組ん



でいます。

職員はレストランのウェイターのようなおもてなし用の服に着替えます。職員も着替えると気持ちが変わり、背筋がビシッと伸びます。

また、昼食は器からメニューまで豪華な物をお出ししています。

お食事は職員も同席させて頂いたとき通常とは異なったコミ

ュニケーションが取れたと感じております。

その後、プログラムも楽しんでいただけようゲーム性の高さを重視し、利用者へ提供して

います。今回は芸能人の若い頃の写真と現在の写真を用意し、見慣れない物を皆様にお渡しして誰なのか当てていただくゲームを開催しました。すぐに分かる物から最後まで

正解が出ない物までであり利用者に笑顔が多く見られました。

更に、利用者のカラオケ大会も行われ、唄を習っていた方や職員とデュエットされた方など大盛り上がりでした。

職員も恥ずかしながら歌を披露させて頂きました。懐かしの曲から今も聴かれる名曲まで様々な唄

で聴き入る方、手拍子で盛り上げる方など楽しんでいただけたかと思えます。

職員による「モモ劇場」なるお芝居も披露します。不慣れながらも役に努め、利用者には日常での注意の呼びかけと笑いをお届けします。今回は「コウバあちゃんが行く」というタイトルで押し売り詐欺などの注意を呼びかけました。

この様に一日過ごしていただき利用者の良き思い出となる様に努めさせて頂きました。次回も職員一同おもてなしの精神で利用者の思い出の一ページになれるよう努力していきたいと考えております。

お花見

四月と言えば、学生は進級、新社会人、と新しい一步を踏み出す事の多い季節ではないでしょうか。そんな方々を祝福する様に木々や花々も綺麗に花を咲かせます。

今年は「相模女子大学」へお邪魔しました。広大な敷地には手入れの行き届いた花々など足を止めて眺めたくなる植物ばかりでした。

今回の目玉の「百年桜」はソメイヨシノという種類で通常ですと六

十年ほどの寿命と言われる品種ですが、この百年桜は立地に恵まれ百年もの長寿となっているそうです。大きく成長し幹が五メートルもある百年桜の前に、元気をもらっている様でした。

「これは見に来る価値はあったよ。職員さん本当にありがとう。」と言っていただけた事には心から喜びを感じました。



道中も春を感じていただけた様に桜が見える場所・名所と言われる所を通り、ドライブも楽しんでいただきました。

利用者の笑顔に職員も新しい気持ちで春を迎える事が出来ました。

デイサービスセンターモモ

長井 航騎

コミュニティセンターピノ 三年目に向って

『すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。』

日本国憲法第二十五条より

これはいわゆる『生存権』の保障というもので、国民が人間らしく生活を送れるように国家がそれを保障すると憲法で定められています。

さて、私たちコミュニティセンターピノの職員たちは『その人らしく過ごせる居場所を提供する』というテーマを掲げ、利用者ひとりひとりのニーズに応えるべく、出身地から職歴等、あらゆる情報を利用者本人や家族の方々にご協力をいただき収集し、どのように接していくのがよいのか？またどのような環境を提供したら利用者にくつろぎの時間をもたらしことが出来るのか？試行錯誤の日々を過ごさせていただいております。

つい先日、両親と私の仕事について語り合う機会がありました。私たちの施設（コミュニティセンターピノ）は地域密着型という型の施設で、

さらに言うところ認知症対応型という認知症の方を専門に受け入れている所であるということなど、両親にとってはとても衝撃を受けたようです。

皆さんはご存知でしょうか？『認知症』という言葉が厚労省によって普及してから十年が経過しています。一般的にそれまでは『痴呆症』と言われ、差別的な意味合いで使われていました。

認知症になりたくてなるわけでもない…。

人間の身体はそこまで万能ではないのです。

では、どうすればいいのだろうか？医学の進歩によつて認知症の進行を抑制する薬などは開発されておりますが、完治には至らないのが現状であり、我々はそれを受け入れなくてはなりません。認知症にかかってしまつてからでは遅いのです。

ならば我々にはなにもできないのか？私は違うと思います。認知症になつてしまつたからといってその方の人生の終焉となるわけではありません。我々は『死』を迎えるまでこの疾患と付き合つていかねばなりません。人間、お付き合いをするにはそれをよく知る必要があ

るのではないかと思います。そうです、『認知症』とは一体何なのか？という所からでもいいのです。幸い現代はメディアの普及によつて様々な情報が簡単に手に入るようになりました。道は開かれているのです。

今年の一月、厚労省より『新オレンジプラン』なるものが発表されました。これは政府が国を挙げて進める認知症施策のことで『認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続ける社会の実現を目指す。』ということを基本的な考えとしております。仮に認知症になつてもそれまでと変わらない生活を送れるような環境づくりをしていこうというようなことですね。

『自分らしく』これはとても難しいテーマの一つではないかと思ひます。憲法に謳われている『生存権』の枠を超えていて、とても壮大なスケールを感じてなりません。しかしながら我々センターピノの職員一同は、設立より三年を迎えるにあたり『認知症』というものをよりよく学び理解する、センターピノから地域の皆様に様々な情報を発信出来るような環境を整え、『認知症の方』

が地域の皆様に広く受け入れられるような環境の醸成に努めて参りたいと思います。

地域の皆様におかれましてはこの『認知症』という疾患のご理解にご協力を頂きますようお願いを申し上げます。次第であります。

読んでくださっている方々に感謝とささやかなお願いをこめて
コミュニティセンターピノ

木山 克広



ピノの庭にも桜が咲きました。利用者の方々にも春の訪れを感じていただいております。

特別養護老人ホームモモ
なかよしコンサート



日ごとに暖かさを感じられるようになり、桜のつぼみも膨らみ春の訪れを告げる中、モモ・ピノ仲良しコンサートが開催されました。このコンサートは、こども園モモ・保育園ピノの園児と、特養モモ・デイサービスモモの利用者が1年間に渡って重ねてきた世代間交流での成果を発表する場です。

世代間交流は、子ども達にはお年寄りとの交流を通して豊かな感性・人間性を育んでいただくこと、お年寄りには子どもたちとの触れ合いを通して元気を貰って、笑顔になっていただくべく定期的に催さ

れます。園児と特養モモの利用者が、一年間練習を重ねてきた、合唱の発表を行いました。

合唱は、特養の利用者の発表にデイサービスやケアハウスの入居者・園児も含めた見学者の唱和も加わり、大変賑やかなものとなりました。

『茶摘み』では、園児と利用者との間で手遊びを行い、園児との交流に笑顔になる利用者を前に、始めのうちは照れていた園児も回数を重ねるうちに徐々に笑顔となり、場に笑顔が満ちていました。



『虫の声』では、園児が利用者の歌に合わせてハンドベルの演奏。『かたゆきかんこ』では、ダンスの披露があり、場はいよいよ華やいだものとなりました。利用者の感嘆の声と、拍手が止むことなく響いていました。

最後に素敵な演奏とダンスのお礼に、卒園を前にした御祝いとして、利用者から『一年生になったら』の歌を贈りました。アンコールを経て温かな雰囲気の中コンサートは幕を下ろしました。

今回、世代間交流委員としても発表の運営の部分で新たな課題を得るとともに、普段とはまた違った利

用者の笑顔と、園児の一年前とは違った姿を目にすることができました。

世代間交流は継続されます。毎月の交流に対して目標を設定し、今年度もまた利用者と園児が交流の成果を発表できる場をより良いものとなるように、私達もより一層の研鑽を重ねていく所存です。



特別養護老人ホームモモ

松浦 雄介

コミュニティホームピノ 世代間交流

蒼生会では、保育園モモ・保育園ピノの園児と入居者の世代間交流を行なっています。活動として、「世代を越えた交流を通して、笑顔と意欲を引き出す関係を作る。高齢者は生きる喜びを、子どもは豊かな人間性を培う」という目標を掲げています。

入居者と園児が同じ時間を過ごし、交流の中で一緒に唄を歌い、手遊びなどをして、ふれあう機会となっています。



参加した入居者からは、
「皆、可愛いね。」
「手を繋いで一緒にお歌を歌い
ましょう。」

など、心温まる声が聞こえます。

この世代間交流の活動を通じて、園児と関わっている入居者の方々は、普段の生活では見られない笑顔を見せてくれます。この交流会で生まれる入居者の笑顔を見て、子どもの持つ力は大きいと強く感じました。

入居者にとって、園児達との交流は楽しみの一つとなっています。園児達の優しく相手を思いやる気持ちが入居者の方々に伝わり、入居者も自分の子や孫に接するように優しい笑顔をしています。交流で「優しいさ」や「支え合い」が生まれており、このようなお互いが楽しめる交流を継続し、機会を増やしていければと思っています。

昨年度より、コミュニティホームピノでも、本格的に世代間交流の場



が増え、この1年間でたくさんの園児達が元気に遊びに来てくれました。

園児達が、コミュニティホームピノに遊びに来てくれ、ピノの館内を散歩しながら入居者の方々とお話ししたり、館内に掲示している入居者の作品を見てもらったりしました。遊びに来てくれた園児が保育園に帰った後に、入居者から、

「今度はいつ来てくれるの?」

「今日は来てくれて本当に嬉しかったよ!」

という声が聞かれました。

私が今まで活動の中で印象に残っていることは、ピノの入居者が趣味で作っている作品を、「子ども達にプレゼントしてみてもどうか?」と提案したところ、入居者も一生懸命作品を作ってくれ、交流会で園児達に作品をプレゼントしました。

すると、

「わーい!おじいちゃん、おばあちゃんどうもありがとう。大切にするね。」

と園児たちが、喜んでいる姿を見て作品を作ってくれた入居者は活ききとしていました。

世代間交流を通じて、もっとこのような時間を入居者や園児の為に

作っていきたいと感じました。

入居者の方々、園児達一人一人にとって貴重な時間を共に過ごす事ができたのではないかと考えます。今後も世代間交流委員の一人として、園児、入居者に笑顔になれる時間を提供できる様に努め、交流の輪を広げて行きたいと考えています。

コミュニティホームピノ

中西 智彦



ケアハウスモモ お花見

4月4日に相模原市立横山公園へ、花見ドライブに行きました。

東京や神奈川では、3月26日ごろを中心に、桜が満開の便りが聞かれるようになっていました。そのため、花見ドライブの時までに満開の状態が持つものか、当日の天気はどうなのかなど、少し心配でした。

横山公園は、JR相模線の上溝―番田間の沿線に沿う形で、公園の凡そ3分の2にわたって桜が植樹され



ているだけでなく、紅枝垂れや、花モモ、スズランといった、色々な種類の樹木や植物も植えられている公園でもあります。春先になり桜が満開になる頃に、それらの樹々や植物も一斉に咲くため、とても色鮮やかな風景になるところです。

当日の天気は、朝方は霧雨が降っていたものの、公園を散策中は、奇跡的にも雨は止み、桜を十分に満喫する事ができました。雨の影響か、多少は肌寒かったものの、桜並木やスポットなどをカメラに収められる方も多く、また、入居者の皆さんで集合写真を撮影しました。横山公園はJR相模線の沿線に位

置するので、時折、電車が通過していました。桜と電車の風景が一緒に入った写真を撮りたいと、撮影ポイントを一生涯懸命に何度も探される方もいました。

また、当初は予定していなかった、横山公園まで行く途中にある、

幾つかの街道に咲く桜並木を車中から散策しながらドライブするという、ささやかなサプライズもありました。

相模線は昭和30年代後半～50年代まで、2～3両編成のディーゼル車で、ローカルな雰囲気があり、のんびり・ゆったり走っていたこと、今はなくなってしまうが、昔は西寒川という名前の駅があったことや、過去に横山公園に行ったことがある方からは、その当時飼っていた犬を公園で遊ばせていたころの思い出などが蘇りとても懐かしかったこと、植物の名前の由来などについて教えていただきました。

今回の横山公園の花見散策が、入居者の方々に喜んで頂けたことが何よりも嬉しかったです。

帰宅後は、御花見御膳を入居者と一緒に食べました。

来年は、入居者にとって、より楽しんでいた企画と行事を作りたいと思います。今回の花見ドライブを通じ、入居者の方から色々な話を聞くことができたのが何よりも嬉しかったです。



ケアハウスモモ

勝山 亮

居宅サービスセンターモモ

これからの介護保険制度

平成27年、3年に1度の介護保険改正が施行されました。新聞、テレビで“介護報酬大幅減”などと色々取り上げられていたと思います。が、今回の改正の3つのポイントは①中重度の要介護者や認知症高齢者への対応の更なる強化

地域包括ケアシステムの構築に向けて、今後、増大することが予測される医療ニーズを併せ持つ中重度の要介護者や認知症高齢者への対応として、引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

24時間365日の在宅生活を支援する定期巡回・随時対応型訪問介護看護を始めたとした包括報酬サービスの更なる機能強化等を図る。

地域の拠点としての機能を発揮して中重度の要介護者の在宅での生活を支援する役割を果たす施設サービスについて、それぞれに求められる機能を更に高めていく。

②介護人材確保対策の推進

地域包括ケアシステム構築の更なる推進に向け、今後も増大する介

護ニーズへの対応や質の高い介護サービス確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取組みを推進する。

③サービス評価の適正化と効率的なサービス提供の構築

地域包括ケアシステムの構築とともに介護保険制度の持続可能性を高めるため、各サービス提供の実態を踏まえた必要な適正化を図るとともに、サービスの効果的・効率的な提供を推進する。

団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)を目途に実現を目指す「地域包括ケアシステム」の中核的な役割を担う重要な事業の1つとして創設されました。地域包括ケアシステムを一言でいうと在宅版の施設サービスです。自宅にいながらにして施設同様のサービスが受けられる、地域がそのまま施設になる、と言ったイメージです。具体的には、日常生活圏域内において、医療・介護・住まい・生活支援サービスが切れ目なく、有機的かつ一体的に提供される地域体制で、在宅生活の限界点を高めるとされています。2025年頃には、爆発的な医療・介護ニーズに遭遇し、対処することになり

ます。もちろん、認知症高齢者も増加します。その時に、高齢者の尊厳保持と自立生活支援のもと、重度の要介護状態になっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けたいという、切実な願いを叶え、適切かつ十分なサービスが必要です。

これからも益々進化する介護保険と、どのようにお付き合いをしていけばよいのか判断に迷うこともあるかもしれません。その際は、お気軽にお声をかけていただければと思います。

居宅サービスセンターモモ

諸林 賢



デイサービスモモ利用者作品「七福神」

社会福祉法人蒼生会

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目22番17号 ホームページ <http://sosaykai.org/>

- | | | | |
|---------------|------------------|----------------|-----------------------|
| ●特別養護老人ホーム モモ | TEL 042-767-8030 | ●居宅サービスセンター モモ | TEL 042-767-8278 |
| ●ショートステイ モモ | TEL 042-767-8030 | ●デイサービスセンター モモ | TEL 042-767-8280 |
| ●ケアハウス モモ | TEL 042-767-8281 | | FAX 042-767-8032 (共通) |

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目15番12号

- | | | |
|------------------|------------------|----------------|
| ●コミュニティホーム ピノ | ●ショートステイ ピノ | ●コミュニティセンター ピノ |
| TEL 042-745-1701 | FAX 042-745-2745 | |

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目21番4号

- | | | |
|------------|------------------|------------------|
| ●認定こども園 モモ | TEL 042-767-8470 | FAX 042-767-8475 |
|------------|------------------|------------------|

〒252-0344 相模原市南区古淵1丁目8番1号

- | | | |
|---------|------------------|------------------|
| ●保育園 ピノ | TEL 042-750-0065 | FAX 042-750-0068 |
|---------|------------------|------------------|

2015年5月1日・500部発行 発行責任者：モモ広報委員会